

---

# 天使の名の下に

羅針

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

天使の名の下に

### 【EZコード】

N5477Z

### 【作者名】

羅針

### 【あらすじ】

天使に支配された世界で天使に歯向かうレジスタンスの話

## レジスタンス

俺は目の前にある天使像に跪いて手を握り、祈る。

「今日も平穏でありますように」

銀髪でツンツンにとがった髪、眼は赤でつり眼、整った顔。怖い感じのイケメンだった。見た目からは天使などは信じてもいいないうな風貌だった。

「さてと。」

そう言って、背中にかけている小刀に手をかけた

「天使狩り、行きますか」

ここは『エフルライト国』この地球は一度、全生命を失いかけた。理由は、天界から『天使』なるものが降りてきて、人類、木々、動物、すべての生命を殺し始めた。そして、『天使』となる清い白き羽、黄色く輝く頭に浮いた光輪。この不気味な生命を信仰するにはワケがある。ここが天使に制圧された国だからだ。  
だが<sup>レジスタンス</sup>反抗勢力がこの国で徒党を組み、天使に抵抗している。

例の銀髪の青年は<sup>レジスタンス</sup>反抗勢力の集合場所である、<sup>エンジェル・トラップ</sup>対天使用施設に到着した。

「おう、きたか青年」

「はい」

俺の名前はスペクル<sup>レジスタンス</sup>＝レンド。目の前に居るのは反抗勢力の3人幹部の一人。

ショット<sup>エンジェル・トラップ</sup>＝フレイク。対天使用施設の支配人はフレイクだ。

「それでは！ 静肅に！」  
<sup>レジスタンス</sup>ザワついていた反抗勢力達が静まつた。

信託の台に立っているのはデュール<sup>レジスタンス</sup>＝スピューテフル。ここの一

ダード。

「今日行つ作戦は、これから起こす戦争用に武器を作つてゐる、武庫<sup>#</sup>の奴等から

武器支援を受けることになつてゐる。

メンバーを選出して、武器庫にいくぞ！」

ここには男しか居ない。というかこの国には女が居ない。

『エルフレイト国』<sup>レジスタンス</sup>は男の国、『レックフルレイト国』<sup>レジスタンス</sup>は女の国。

どちらにも反抗勢力があり、支配している天使の名前で国の名前が

決まる

男天使<sup>エルフ</sup>と女天使<sup>レックフル</sup>によつて名前が変わる。

「メンバーを発表する！！」

## 天使

「あ～あ メンバー落ちだあ」

スペクル＝レンドは武器庫の武器支援隊のメンバー選出で見事、落ちた

門限は5時。今は、4時46分。帰るか……はあ

天使達はここに住む俺たちにありとあらゆる規制をかけて身動きが取れない形になっている。

男は仕事をしなければ殺される、とか

仕事は4時半までしなければ殺される、とか。

天使はとにかく野蛮なのだ。

次の日。俺は武器庫にいく奴等を見送り、対天使用施設に戻った  
仕事とは、<sup>エンジニア・トラップ</sup>対天使用施設のスタッフつてことになっている。  
<sup>レジスタンス</sup>反抗勢力のメンバーアー全員、そうだ。

メンバーに選ばれなかつた奴は、屋内で加重攻撃の練習の真つ最中。  
弾はもつたないので適当な鉄くずを溶かしてビーダマのようにしたもの。

火薬は腐るほどある。

バンバンっと人の形に羽を付け足した板を打ち抜く。中々に練習になる。

その時ビービーと天井のランプが赤い光を照らした。  
天使が近づいてきた証拠だ。

その時ガキンと鉄製のドアが真っ二つに切られた。

「ここに反抗勢力が活動をしていると聞いた。

全員、死刑」

2体の天使。やべえ！

実弾をこめて撃つ！（全員）

バンバンと打つと

「そんなものが効くと思って？」

フィーンと弾が通り過ぎ、壁に弾がぶつかる。

「だめだ！ 弾がきかねえ！」

「人間界の俗物などは天使に触れることが出来ないわ」「天使用の梳もつてない」

「六便用の鉢モトニシ」

向こうの列にされたフレイクパンが叫ぶ  
全員が天使用の銃を握る。

卷之二

バンバンと打つ。

それを  
アンゲロイスキル  
エリカル・ロ

一 天使技術 瞬劍

羽かすへて劍に斐わり弾を兆弾していく  
アンゴロイ

元儀院經曰「元儀才」

「逃げなさい!!」  
「おまえは暴走する!!」

ダダッ！つと皆が逃げる。天使も追つてくる。

「3!2!1!」

## 次の瞬間 対天使用施

再会

「うわあ  
助けてくれ！」

これは俺が幼い

天使から逃げ、追われているときの記憶だ

「待て、人間。

徳は遂に繰りか 徒が少く

遅れたことだ。

俺は逃げ続けた。町中に天使が待ち伏せていた。俺は町の大門に向かつた。開いていた

「開いてる！！」

俺は外に足を踏み出した。そこは町とは全く違った場所だった。  
緑の草が青々と茂り、爽やかで心地のよい風が吹く。  
木々も茂り、林檎や蜜柑、葡萄など沢山の実をつけていた。  
豚や牛も、柵にかせられてはいるが、楽しそうに草原を走っている。  
「きれい……」

「フン。この秘密を見た限りは、死んで貰う。」

「うん、天使技行のアングロイ・スキルで、エリカル・ロッドだ！」

ツと羽が逆立ち、鋭利な針の山となる。

「死ね」

ガキイイイン！

前に控えた大量の針が、別の針にぐしゃぐしゃにされた。

「誰だ！？」  
アンゲロイ

「フン。殺してやる」

数十人の天使が「エリカル・ロッド瞬剣！」と唱えた

「そこまで死にたいなら、歯向かえ」

俺を守つてくれた女の人が叫んだ

その時点では、俺は意識を手なばした。

次起きたときは、家の中で腕を少し負傷した俺がベッドで寝ていた

…

「誰だつたんだろう？」

今でも偶に思い出す、天使を圧倒した唯一の人物。女の子であるなら、レッフルレイト国レジスタンス

反抗勢力のリーダーかななどと違った。

一度会つた時は別人だった。本当の別人だ。

俺たちは、天使にばれないように草原に秘密基地を作つた。

ここなら食料の供給もなんとかなるだろう。

反抗勢力のリーダー、スピュー・テフルさんも、もう合流している。

「武器庫は今回で差し押さえだ。これからは、今ある武器以外はもう残つてない」

そうスピュー・テフルさんが説明した。

（俺にはこれがある）

背中にかけた8本の小刀に手をかける。

この小刀は完全天使アンチ・エンジェル対抗の保護がかけられている。

この小刀を天使たちに宛がうことで、完全に、一瞬にして消し去ることが出来る。

その代わりに、小刀は完全に消えるのだ。相殺つてやつですな。

「さて、今日は寝るぞ」

基地で俺は、浅い眠りについた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5477z/>

---

天使の名の下に

2011年12月20日19時50分発行